

<p>中長期目標 (学校ビジョン)</p>	<p>(1) 道徳教育の充実 ・高校生として望ましい規範意識、生活習慣を確立する。 ・自己肯定感を高めるとともに、他者に対する思いやりなど、周囲と豊かな人間関係を構築することのできる豊かな心を育む。</p> <p>(2) キャリア教育の充実 ・社会的問題に関心を持ち、社会の一員であることを自覚させる。 ・探究活動をおして、社会的問題の解決に向けて必要となる能力を育成する。 ・将来の生き方を前提とした進路指導を展開する。</p> <p>(3) 高い志を有し、学ぶ意欲を向上 ・将来の生き方を考えさせることで主体的に学ぶ姿勢を涵養するとともに、社会問題の解決に向けて必要となる確かな学力を育成する。 ・授業をおして論理的思考力、表現力、コミュニケーション能力を高める。</p>	<p>今年度の 重点目標</p>	<p>(1) 将来を見越した生活習慣の確立 (2) キャリア教育の充実 (3) 主体的な学習姿勢の構築、及び学力の向上 (4) 情報収集、情報発信の充実</p>
---------------------------	--	----------------------	--

		年度当初			評価結果 (9)月	
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	改善方策
将来を見越した生活習慣の確立	① 社会や人とのつながりを意識した生活習慣を身につける	【生活支援】 ・全般的に挨拶はよくできている。きちんと立ち止まらざるは、外部からも好評である。 ・授業や集会での聴く姿勢はよい。講演を受けての質問等の場面で積極的な姿勢に乏しい。 ・自分の置かれている状況や立場を考えて行動できない場面がある。	・自然に自分からさわやかな挨拶ができる。 ・授業や集会などで顔を上げて、きちんと話を聴くことができる。 ・ともに、積極的に自ら発言をすることができる。 ・TPOを意識した行動をとることができる。 ・日常的な生徒観察により評価する  ☆は評価の方法(以下同じ)	・積極的、意欲的な行動や姿勢をとった生徒を褒めて育てる。 ・生徒会を中心に、生徒同士で挨拶をかわす機会をより増やす。挨拶することの意味等をHR等で繰り返し話して指導する。 ・授業も含め日常的に発言できるように、生徒が発表する機会を数多く設定する。 ・生徒会活動を通して、生徒が責任をもって主体的に取り組むことに喜びや達成感をもてるよう指導する。	【生活支援】 ・挨拶の大切さ、姿勢等の指導に力を入れている。生徒の自主性は育ててきている。 ・生徒アンケートにおいても、9割以上の生徒が基本的な生活習慣について適切な指導がなされていると捉えている。 ・西高祭を通して、地域の方をはじめとして社会と関わる経験を得ている。 ・生徒アンケートの結果でも、生徒会活動への関心度が上昇している。	・マナー、礼儀作法について、教務室への出入り、授業の開始・終了の挨拶、清掃など日常的な部分での指導を継続する。 ・生徒会行事、委員会活動など自治的諸活動において生徒が主体性を発揮できるよう引き続き指導する。
	② 講演会等を通して人としての生き方を学ぶ	【S1】 ・高校3年間で何を学び、将来どうやって社会に貢献していくかという明確なビジョンを持っている生徒は少ない。	・将来学びたいことが明確になり、そのために今、何をすべきか判断し、行動することができる。 ・☆CHALLENGE NOTE等による観察で評価する	・様々な講演会や諸活動に意図的に取り組ませ、感想や気づきを継続的に記録し、振り返りながら、自らの生き方について考えさせる。	・講演会や学校祭などの行事で振り返りシートを活用し、自らの生き方や生活を振り返り今後の高校生活に生かそうとしている。 ・メモや記録が不十分で積み上げになっていない生徒もいる。	・振り返りシートをこまめにチェックし、経験を丁寧に振り返る習慣を身につけさせる。
キャリア教育の充実	① チャレンジグループ活動の計画的な実施、及び内容の充実	【キャリア支援】 ・講演会やボランティア体験により地域社会や職業についての理解が進み、進路意識が高まった。 ・個人研究の成果をレポートの形にまとめることができた。 ・多くの生徒が個人研究テーマと結びついた進路を選択した。 ・チャレンジグループ活動の意義を見いだせず、お座なりな取組みで終わった生徒もいた。	・地域社会の現状や職業に対する理解が深まり、進路意識が向上する。 ・S2の早期に個人研究テーマを定め、計画に沿って研究を深めていく。 ・研究テーマに応じた調査、情報収集の仕方を学び、レポートの形にまとめる。 ・上級学校における学びやその後の職業の選択と結びつくような取組みとする。	・チャレンジグループ活動ガイドをもとに年間の活動計画を把握し、スムーズな活動が行えるようにする。 ・教職員自身も情報収集に努め、研究テーマ設定について適宜アドバイスを行う。 ・過去の取組みを参考にしながらCHALLENGE NOTEを有効活用する。 ・担当する生徒の志望進路を把握し、担任と情報を共有しながら適宜アドバイスを行う。	・S1: 各種講演会を聴くことで地域社会に対する理解が深まった。 ・S2: 個人研究テーマは一応決まったが、見直しが必要な生徒もいる。 ・S3: 個人研究の成果を各自レポートにまとめた。西高祭での発表は他グループの生徒への刺激になった。また、保護者のからもよい評価をいただいた。 ・研究を通して大学での学びや目標が明確になった生徒も多かった。	・学園祭での発表は効果的。継続的な取組みとしたい。 ・活動ガイド、CHALLENGE NOTEはともに有効。今後も継続。 ・フィールドワークの情報収集局面でのタブレット端末の活用方法を充実させる。
		【S1(バイオニアホーム含む)】 ・チャレンジグループ活動に積極的に取り組みたいと考えている生徒は多い。	・自らの明確な意思でチャレンジグループを決定し、個人研究テーマを設定する。 ・☆CHALLENGE NOTE等による観察で評価する	・CHALLENGE NOTEを有効活用し、様々な体験を積み上げていく。	・フィールドワークイン鳥取やオープンキャンパス、フォーラム等に参加し、社会の仕組みや課題、自らの進路について考える生徒が増えてきた。 ・フィールドワークイン鳥取でタブレット端末による取材を初めて実施した。プレゼンテーション制作は初めての体験でありまだまだ不慣れである。	・CHALLENGE NOTEの記録をチェックし、記録を積み上げていくことの大切さを理解させ、記録の質を高める。 ・教科「情報」と連携しながらプレゼンテーションの質を高めていく。
		【S2(バイオニアホーム含む)】 ・春休みに決定した研究テーマに沿って計画的に探究活動を進めようとしている。	・探究活動をおして、研究テーマに係る問題意識を育み、その解決に向けて現状を分析し様々な方向から対策を考える。 ・☆CHALLENGE NOTE等による観察で評価する	・S3の発表、講演会、施設・企業等の現場の訪問等の機会をとらえ、積極的に取組むよう促し、研究テーマに係る探究を深め考え方を広げられるようにする。	各グループで講演会や訪問、散策等を取り入れながら計画的に進められている。	・フィールドワークイン関西の事前事後指導、各テーマに沿って個人で行う訪問後の振り返りの中で、社会の課題や自分自身との関連を整理させることで、探究を深めさせる。 ・情報収集局面でタブレット端末を積極的に活用する。
		【S3(バイオニアホーム含む)】 ・S2時点で研究テーマを確定し、個人研究を行っている。 ・4月のスタディーサポートの結果、生徒の学習意欲、自己評価が向上している。生徒の自己肯定感を高めることに係るチャレンジグループ活動の好影響を見て取れる。	・チャレンジグループ活動個人研究の報告書を完成させる。 ・チャレンジグループ活動を通して、自らの進路目標を明確にし、将来、社会に貢献していく態度を身につける。 ・☆CHALLENGE NOTE等による観察で評価する	・チャレンジグループ活動個人研究の報告書の内容が充実するよう適宜面談を実施するとともに、活動終了後の進路希望に合わせ、適宜個別指導を行う。	・6月までに計画的に研究を進め、学園祭でCGの代表が発表することができた。他グループの研究を共有できたことは非常によい効果があった。 ・CG研究後、生徒の学習意欲が高まった。 ・7月までにレポートを作成し計画的に研究できた。 ・情報収集の段階でタブレット端末が使えるようになり、情報室の混雑が解消した。	・学園祭での発表は継続的な取組みとしたい。 ・活動ガイド、CHALLENGE NOTEはともに有効。今後も継続。
② 地域社会のことを知り、アウトプット能力を向上させる	【S1】 ・ボランティア活動の目的は理解しているが、自ら進んで行動していこうとする姿はまだ少ない。	・ボランティア活動に全員が一回は参加し、社会の中での自分のあり方を考え、社会の課題に気づき、解決策を考えようとする姿がみられる。 ・☆ボランティア発表会に向けた作品づくりで評価する	・ボランティア活動参加前の事前指導を行い、学び、気づき・課題・解決策などを記録し、ホームで発表する。	・現在約80名が参加(参加予定)しており、活動を通して気づいたこと、考えたことを記録している。複数回参加する生徒も多い。 ・参加(申し込み)していない生徒も多くなる。	・2月にホームでの発表を予定している。 ・まだ参加していない生徒に対して、声かけを行い、目的意識をもって参加させる。	
	【S2】 ・ボランティア活動に積極的に参加し、地域に貢献しようとしている。	・ボランティア活動をおして地域の現状を知り、自分の在り方について考える。 ・☆CHALLENGE NOTE等による観察で評価する	・ボランティア活動終了後に、感想等を記録し今後の探究活動等に活かす。	現在14名がボランティアに参加している。昨年度に比べ、参加者が非常に少ない。部活動に入っていない生徒や週1の生徒に個別に声を掛けるが乗ってこない。	・社会の中の一員であることを機会あるごとに話していく。 ・ボランティアで地域の現状を知ることが出来たり、様々な立場の方々と関わりながら自分で自分を育てる機会にもなることを更に伝えていく。	
	【S3】 ・入学当初より多くの生徒が自主的にボランティア活動を行っている。	・ボランティア活動に参加することにより、継続的に地域の地域貢献を行っている。 ・国内の学部、学科研究を通して、各大学等の研究が各地域や国内外の社会貢献につながっていることを認識している。 ・☆CHALLENGE NOTE等による観察で評価する	・継続して地域のボランティア活動に参加するよう、呼びかける。 ・各大学等の学部学科における社会貢献の実態を調べ、社会的自己実現につなげていく。	・多くの生徒が積極的にボランティアを行った。今後その経験を活かし、社会貢献するために高い教養を身につけられるように学び続ける姿勢をさらに求めたい。	・ボランティア活動等、地域社会に積極的に関わった生徒ほど、進路開拓でも強みを発揮できることを、先輩が後輩に語り継ぐ機会を適宜設定する。	

評価項目	評価の具体項目	現 状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
主体的な学習姿勢の構築、及び学力の向上	①アクティブラーニングの視点やICTを取り入れた授業の工夫	【学習企画】 ・ベアワークやグループワークで積極的に話し合ったりする場面は確実に増えているが、それが自ら深く考え表現する活動に必ずしもつながっていない現状がある。 ・iPadなどICT機器を取り入れた授業も増えてきてはいるが、効果的な活用について今後も研究を必要としている。またICTを活用する環境整備にも工夫改善が必要である。	・仲間との意見交換を通し、自分の考えを深め、それを積極的に発言する場面が増加している。 ・授業に主体的に参加するために、実のある主体的な家庭学習を行う時間が確保できている。 ・形だけの提出ではなく、実際に自分でやった提出が95%以上となっている。 ・ICT機器の授業での効果的な活用について教職員同士が普段から情報交換できている ☆家庭学習時間の目標値 S1:2時間以上の生徒が継続して70%以上。 S2:2時間半以上の生徒が継続して70%以上。 S3:総体後5時間以上の生徒が50%以上。	・授業研究会やアクティブラーニング研修会を実施し、WG等と連携して「主体的、対話的、深い学び」に結びつく工夫を考えていく。 ・生徒に「あれこれ考え、悩み」、それぞれが自分なりの答えに到達する設問、発問を意識した授業展開を考える。 ・授業アンケートの質問項目を、より生徒の意識を読み取れるものとなるよう工夫する。S3はアンケートを12月に実施する。 ・授業づくりのヒントとなるように、ICTを使った授業実践の動画等のデータを蓄積していく。	【学習企画】 ・少人数で話し合って発表する環境はできている。それが確実に「深い学び」につながるような授業展開を更に考える必要がある。 ・週末課題の解答欄や授業のワークシートをとりあえず埋めるといったレベルにとどまっている生徒もおり、自分で考え自分なりの考えに到達する過程を意識した教材や授業の工夫も必要である。 ・ICTを使った授業実践のデータ蓄積については、技術的なハードルが思ったより高く今のところまだ手がつけられていない。 ・家庭学習時間調査の数値目標については、S1は継続して目標値をクリアし、S3も着実に伸ばして来ている。但し、S1に関してはかけている時間と実際の学習内容との関係をもっと詳しく見ていく必要がある。 S2は調査前以外では、中だるみ現象が出ているのか目標値に達していない。但し、昨年よりは増加傾向にあることもまた事実である  【S1】 ・家庭学習時間2時間以上の生徒 4月85%、5月74%、6月95%、7月73%、8月92% 学習時間は目標を達成する取り組みができていく。 ・課題の提出率は高いが、不備や形だけのものになっており、再提出を求められる生徒も多い。	C	・2学期も授業研究会を継続して開催し、また他校での公開授業に積極的に参加するなどして多くの実践から授業改善に向けての何かヒントを得る機会を増やす。 ・授業アンケートの質問項目を工夫し、生徒に日々の予習復習、週末課題の取組状況を振り返る場面をもうける。この生徒の家庭での学習状況や成績を把握し、個別対応で授業担当でも面接を実施する。 ・ICT機器を活用した授業実践のデータ蓄積は今後も継続する。  【S1】 ・学習時間は今後も継続していけるように、声かけをしていく。 ・課題点検を丁寧に行い、提出率を高めると共に、質(取り組み内容)の大切さを理解させる。
	②学ぶことの意味を理解し、主体的に学ぶ意欲を高める	【S2】 ・学力を高めたいという思いはあり、与えられた課題には積極的に取り組めるが、各自が工夫した学習にはなっていない。	・常に向上心を持ち、家庭学習を定着させ、定期考査や模試を節目に、PDCAサイクルを意識した実践をする。 ☆評価の指標は①と同じ	・各自が自分の学力の現状を分析し、不得意分野を克服し、得意分野を伸ばすために自分で課題を設定して取り組めるよう、面談等の機会をとらながら丁寧個別指導を行う。	・自主学習や質問に来る生徒が増えてきて、与えられた課題以上のことに取り組む生徒の姿が見えてきた。 ・その一方で、追試・追追試の対象が固定化されているのが課題である。 ・家庭学習調査で、ステージの平均を下回る生徒には、学習状況を振り返らせ、記述させている。 ・自宅学習時間2時間半以上の生徒 4月22%、5月25%、6月94%、7月52%、8月70%	B	・追試対象者にはただ追試をするだけでなく、補習や話をする時間を取っているにも関わらず、反映されない生徒に対して教科で個人面談を計画し調整しながら実行する。
	③校外模試成績を含めた学力向上	【S3】 ・チャレンジグループ活動等を通して、学ぶことの意味についての理解が深まっている。 ・大学等希望する進路先と学力の乖離が大きい。	・目的意識を強く持ち、自己の希望する進路の実現に向け、定期考査・校外模試等の機会をとらえ、PDCAサイクルに基づき取り組んでいる。 ☆評価の指標は①と同じ	・SHR、ステージ集会でPDCAサイクルの重要性を理解させるとともに、面談等で生徒一人ひとりの実態に応じた個別指導を行う。	・学ぶ意欲が向上した。 ・自宅学習5時間以上48名(43%)		・目標を高く持って取り組むよう引き続き指導する。
	④キャリア支援	【キャリア支援】 ・7月進研、11月進研(ともに記述模試)について、全ステージで拡大ステージを開き、成績の状況や問題点の共通理解を図り、対策を講じている。 ・各模試の前に各教科で過去問を用いるなどの模試対策を行い、受験後は模試復習の指導を教科毎に行い、習慣化を図っている。 ・長期休業中の課外を全ステージで実施している。 S3については放課後センター演習、2次課外も実施している。	・全教員が生徒の学力を把握し、全体または個別の学習指導を適切に行うことができる。 ・模試の取組についてもPDCAサイクルが確立されている。 ☆S1の目標値 ・7月進研模試の結果に基づき実態に応じた目標値を設定する。 ☆S2の目標値 ・1月進研模試の3教科の平均偏差値が51以上。 ☆S3の目標値 ・センター試験520点以上(900点満点)の生徒が20名以上。 ・センター試験を利用した国公立現役合格者(推薦Ⅱ、AOⅡ、一般)20名以上。	・S1は7月進研模試の結果をもとに実態に応じた目標を設定する。 ・拡大ステージ会に多くの教員が参加し、その後の指導にいかす。 ・模試対策、復習を教科に任せきりにせず、各ステージでバランスのとれた指導となるようにする。	【キャリア支援】 ・各ステージで拡大ステージ会を開き、今後の指導の方針を共有することができた。 ・S3は模試の成績が向上してきた。また、放課後学習会の参加者も増えてきた。 ・S1目標:48に設定 ・S2目標:53に修正 ・S3目標: ・センター試験520点以上(900点満点)の生徒が20名以上。 ・センター試験を利用した国公立現役合格者(推薦Ⅱ、AOⅡ、一般)20名以上。  【S1】 ・目標偏差値48(1月進研模試) ・拡大ステージ会で現状を共有することができた。  【S2】 ・7月進研模試の平均偏差値は51.8。 【S3】 ・校外模試において成績も上昇している。	B	・踏み込んだ指導をしていく(課題に取り組む姿勢、家庭学習の質、あいさつ、清掃など学習のみならず生活全般において)。  【S1】 ・生徒の状況をステージで共有し、声かけや面談を行いながら学ぶ集団の雰囲気づくりを行っていく。 ・考査や模試の振り返りシートを活用し、目標を設定させ、学ぶ意欲を高める。 ・段階の掲示物ボード等も活用し、学習に向かう環境づくりを行う。 【S2】 ・模試を、自分の学力定着度を確認する機会と捉え、日常的に復習に取り組んでいくよう指導する。 【S3】 ・目標を高く持って取り組むよう引き続き指導する。
	⑤バイオニアホーム(Gホームの取組及び他のホームに広げることを含む)	【バイオニアホーム(Gホームの取組及び他のホームに広げることを含む)】 【S1】 ・学習意欲が高く、課題に対して熱心に取り組む、期限を守って提出できる。 ・学習習慣と学力とのバランスが取れている生徒が多い。 【S2】 ・生徒会活動や部活動と勉強との両立に努力している。 【S3】 ・学校におけるバイオニアとしての自覚を持ち、主体的に学習や学校行事に取り組んでいる。	【S1】 ・バイオニアホームとしての自覚を持ち、主体的な学習者としてステージの核となっている。 ・模試の意義を理解し、計画を立て準備、復習をすることができる。 【S2】 ・自己管理を徹底し、先を見越して計画的にものごとを進め、学習面・生活面ともにステージのリーダーとして集団を引っ張っていく。 【S3】 ・学校におけるバイオニアとしての自覚を持ち、主体的に学習や学校行事に取り組んでいる。また、他ホームにもその輪が広がっている。	【S1】 ・「生活の軌跡」を有効活用し、個々の生徒の取組に対して振り返りを促し、改善を図る。 ・拡大ステージ会により生徒の状況や問題点の共通理解を図る。 ・過去問などにより模試対策を行う。 【S2】 ・各自が目指す姿を設定し、バイオニアホーム独自の見学や体験をおとして視野を広げ、自分を高めるための具体的な工夫をする。 【S3】 ・学校におけるバイオニアとしての自覚を持ち、主体的に学習や学校行事に取り組んでいる。また、他ホームにもその輪が広がっている。	【S1】 ・学習時間、課題提出状況、ボランティア参加状況の全てにおいてステージをリードしている。 ・フォーラム、岡山大学オープンキャンパスなどに参加したこと高い目標を持った生徒も多い。  【S2】 ・生徒会役員に3人立候補し、学校を引っ張っていく意識を持っている。また、ホーム全体で、単に学力だけでなく、人として生徒のプロ・手本となるような行動を意識している者が多い。 ・国公立大学進学を意識した話をSHR等で伝えている。 ・保護者を対象とした懇談会や説明会の出欠確認の提出が遅い生徒が多く、保護者の参加が少ない。  【S3】 ・執行部、学園祭実行委員会、学習会などステージ全体をリードする姿が多くみられる。	B	【S1】 ・バイオニアホームとして経験したことを他ホームに発信する機会を設定したい。 ・面談等により進路目標を明確にし、模試に向けた意識を高めていく。  【S2】 ・学力・人間性をさらにレベルアップするために、自分の現状として、強み・弱みを整理させようすることが必要か具体的に考えさせる。 ・学校や本人任せの保護者の意識を変えることをねらいとして、生徒に保護者の受験への理解がないと3年になってから困るという話をしていく。 参考:9月1日(土)進路説明会出席者数 A:17名 B:18名 C:15名 ・フィールドワーク関西でのバイオニア企画の事前事後指導で視野を広げさせ、探究を深めることに繋げさせる。  【S3】 ・経験したことを将来に生かせるよう引き続き指導する。
	⑥情報収集、情報発信の充実	【総務】 ＜ホームページの運用＞ ・更新件数は増加しているが、更新する者が特定教職員に偏っている。(更新件数:平成28年度160件→平成29年度194件) ・アクセス数は増加している。(平成28年度約204,500件→平成29年度約297,400件) ＜季刊倉西・倉吉西高通信の刊行＞ ・時期をずらして、それぞれ4回ずつ刊行している。  ＜ミッタシステムの運用＞ ・S2・3生保護者の登録率は92%。(未登録者に登録依頼したことで、登録者数が増加した) ＜中学生体験入学・中学校での高校説明会＞ ・体験入学では、2日間で370名以上が参加し、「参考になった」の回答が99%以上であった。	＜ホームページの運用＞ ・生徒の活動や必要な情報が適宜、掲載され、見やすく、わかりやすい画面になっている。 ・担当した行事、部活動の様子を教職員が速やかに掲載する。 ☆ホームページ更新件数の目標値 ・230件(前年度2割増) ＜季刊倉西・倉吉西高通信の刊行＞ ・保護者に学校並びにPTAの活動や方針等を適宜、伝える。  ＜ミッタシステムの運用＞ ・全保護者が登録し、漏れなく緊急連絡を行うことができる。  ＜中学生体験入学・中学校での説明会＞ ・映像等を用い、倉吉西高の取組を分かりやすく伝えるよう代表生徒を指導する。 ・体験入学は保護者にも参加を呼びかける。	＜ホームページの運用＞ ・項目の見直し・修正を可能な範囲で行う。 ・学校行事・部活動の大会等の機会をとらえ、適宜、担当教職員・部活動顧問への掲示呼びかけを行う。  ＜季刊倉西・倉吉西高通信の刊行＞ ・年間計画を立て、『季刊倉西』では学校から保護者宛のメッセージを、『倉吉西高通信』ではPTA活動の紹介と参加呼びかけを主とした紙面とする。 ＜ミッタシステムの運用＞ ・未登録の保護者への登録呼びかけを行う(4月・7月・12月の3回)。  ＜中学生体験入学・中学校での説明会＞ ・映像等を用い、倉吉西高の取組を分かりやすく伝えるよう代表生徒を指導する。 ・体験入学は保護者にも参加を呼びかける。	＜ホームページの運用＞ ・更新件数 292件 (9/12現在) ・アクセス数 104,387件 (9/12現在)  ＜季刊倉西・倉吉西高通信の刊行＞ ・季刊倉西:春号(5月)・夏号(9月)発行、秋号(11月)・冬号(2月)発行予定 ・西高通信:174号発行、175号(12月発行予定)  ＜ミッタシステムの運用＞ ・7月に登録呼びかけを実施 ・登録率 97.7% (9/12現在)  ＜中学生体験入学・中学校での説明会＞ ・体験入学:参加者284名(うち保護者21名)、99%が「満足」と回答 ・説明会:各中学校で3年生への説明会を開催(6月)	A	＜ホームページ＞ ・教職員への掲載呼びかけを引き続き行う(特定少数の者のみの掲載にならないように留意)。  ＜季刊倉西・倉吉西高通信＞ ・季刊倉西:計画どおりに発行する。 ・西高通信:引き続きPTA広報部会で内容・構成を検討する。  ＜ミッタシステム＞ ・12月に再度、登録を呼びかける。  ＜体験入学・説明会＞ ・体験入学:目標を達成。次年度も同様に開催する。

A:9割達成、B:8割達成、C:6割達成、D:4割達成、E:4割未満